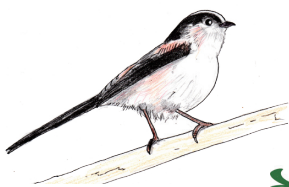


が、これからは自分たちが先祖から受け継がれてきた命のバトンを後世に「幸せのバトン」として繋がるようにすることが今の私達の役目と責任だと思えます。

今日の出会いをこれからの活動のエネルギーとして次世代の子どもたちの幸せを願いながら、プロジェクトの皆さまと「肅々」とデータ取りを続けていきたいと思っております。

この後の懇親会まで参加させて頂きますが有難うございます。これからも「フクシマ」に協力と見守りをどうかよろしくお願い致します。



シンポジウムに参加された方々の声

●ウクライナと日本の子どもたちへの取り組みの違い（日本は無策）、焼却炉による二次汚染、住民無視の焼却炉建設、空間線量とリネンで測定した放射線量の違いなど、今まで知らなかったお話をたくさん聞くことができ、勉強になりました。問題は大きいですが、まずは知ることから始まると思えます。（30代・男性）

●白石さんの講演はすごくよかった。もう少し長くても良かったのでは。というのは、チェルノブイリと日本（福島）の健康調査の取り組み方の違い（日本は何もやっていない）と、その構造についてももっと詳しくお聞きしたかった。そして、どうすれば日本ももっと健康実態を把握し、対策（治療）を体系的にできるのか、アイデアがあれば教えていただきたいし、考えていきたいと思った。（30代・女性）

●国や政府の考え方、チェルノブイリ事故から学び活かさない事実。お金のために住民（国民）を犠牲にする政策は、許せないと思いました。白石さんの話は、子どもを持つ私には胸の痛い話でした。起こってしまった事故は元に戻せませんが、同じことを繰り返さないため、また今後被害を大きくしないため、ちくりん舎の活動を少しでも応援していきたいと思えます。（40代・女性）

＜測ることを通じて新たなつながり—環境汚染や健康被害を防ぐために＞

今回のシンポジウムは、深刻な放射能汚染と健康影響が広がる中で、環境汚染のこれ以上の悪化を防止することや、被ばくによる健康影響を防ぐため、様々な取り組みを進めているグループや個人が新たな連携を作るためのものとなりました。

ちくりん舎が単に測定をするだけでなく、測定することを通して、健康被害防止や環境汚染防止のための様々な活動の一つのセンターとしての役割りを果たせるよう、引き続き努力してゆきたいと思えます。

●具体例ばかりで大変わかりやすかった。白石さんのお話。コロステン他、生徒たちの様子に危機感を持ちました。土壌測定が基本であることを改めて思いました。和田さんのお話。こんなにたくさん（放射性廃棄物処分場）。利権で金も使われ、土地も放射能をばら撒かれ、悲しいです。たまたま鮫川で第1号が造られ、最初から勇気をもって声を上げて、素晴らしいです。（50代・女性）

●キエフ、ウクライナの状況のおしらせ、ありがとうございました。非常に細かく、丁寧な人体に及ぼす影響の調査と資料、見事でした。日本はなんと後進国なことか。このままですと、若い人から赤ちゃんまで、未来の日本を支える人の健康が心配です。日本国の政治家や官僚、さらに財閥の人たちは、国民の健康は二の次です。すべて、自然と人を大切にしない国家は滅びます。（70代・男性）

●タイムリーな良い企画だったと思えます。ちくりん舎、鮫川村などの報告もあり、幅広い勉強になりました。（80代・女性）

*当日のアンケートより抜粋